

## Y6-6

### 当科における口腔ケアチームの取り組みについて

長野赤十字病院 口腔外科<sup>1)</sup>、  
 長野赤十字病院 神経内科<sup>2)</sup>、  
 長野赤十字病院 看護部<sup>3)</sup>  
 ○菅田 美希<sup>1)</sup>、山本 綾乃<sup>1)</sup>、小松 佳愛<sup>1)</sup>、  
 星 研一<sup>2)</sup>、長田 ゆき江<sup>3)</sup>、外谷 明日香<sup>3)</sup>、  
 小川 公代<sup>3)</sup>、五島 秀樹<sup>1)</sup>

【はじめに】当院では2008年10月より、入院患者の口腔環境の改善、QOL向上、誤嚥性肺炎の防止を目的とした口腔ケアチームを立ち上げた。チームは、神経内科の医師、看護師、歯科医師、歯科衛生士、言語聴覚士で構成されている。チーム設立までの経過、現状及び今後の課題について報告する。

【対象】神経内科に入院している患者で、以下の三つの条件を満たす者とした。1.入院が一月以上見込まれる 2.状態が安定している 3.口腔内の清掃状態が良くない。

【経過】2009年5月まで、条件を満たす10名に対し、口腔ケアチームの介入を試みた。最初の3名に対しては、1クールを一月間とし、看護師が一日三回の口腔ケアを毎日実施し、歯科衛生士が一週間に一度訪問して口腔ケアと口腔内の評価を行った。しかし、短期間で集中的に専門的口腔ケアを実施した方が効果的ではないかという意見が出たため、その後の対象者7名に対しては、1クールを一週間とし、看護師が一日二回の口腔ケアを毎日実施し、歯科衛生士が毎日訪問して口腔ケアと口腔内の評価を行った。

【結果】専門的口腔ケアを集中的に実施したことで、対象者10名のいずれにおいても口腔環境の改善が見られた。定期的にミーティングを行い、各職種間で情報交換・意見交換をすることで、より多角的な視点を獲得することができた。勉強会を開くことで、口腔ケア技術が平均化された。

【考察及び課題】チームとして病棟に介入することにより、病棟全体での口腔ケア技術と志気の向上が得られた。今後の課題としては、口腔ケアチームの活動を他病棟に広めていくことが必要と考えられた。

## Y6-7

### 当院NSTにおける歯科衛生士の役割

大分赤十字病院 歯科口腔外科<sup>1)</sup>、  
 大分赤十字病院 NST委員会<sup>2)</sup>  
 ○植田 ひとみ<sup>1,2)</sup>、諫山 美鈴<sup>1)</sup>、高藤 千鶴<sup>1)</sup>、  
 黒川 英雄<sup>1,2)</sup>、吉田 雅文<sup>2)</sup>

【はじめに】当院は急性期病院であり、NSTは平成17年12月に発足した。栄養状態評価、経管静脈栄養、嚥下障害、食事支援の4チームから構成されている。歯科衛生士は嚥下障害チームに属しており、看護師、管理栄養士、理学療法士と連携をとりながら活動している。今回、NSTにおける歯科衛生士の役割、活動内容、今後の課題について報告する。

【経過と現状】以前より嚥下障害チームに病棟からの介入依頼を受け昼食時に回診を行っている。しかし、嚥下障害チームの一員である歯科衛生士は外来業務が忙しく参加することができなかった。改善策として歯科助手1名を配置し、歯科衛生士が回診に参加できるようになった。

介入の結果、依頼患者の大多数に口腔乾燥、舌苔、口腔カンジダ症、義歯不適合などの口腔トラブルが見られた。介入初回時から歯科衛生士が口腔ケア等に関わる事で口腔トラブルが早期に改善し、経口摂取、嚥下訓練が可能になった。また毎月1回NST委員会にて、活動報告、勉強会を行っており、NST委員や他職員に口腔内の見方、口腔ケアの方法の講義、実技の指導を歯科衛生士が行っている。チーム内の他職種との連携を図ることにより、情報の増加、コミュニケーションが活発化し、歯科衛生士自身のスキルアップにも繋がることを実感している。

【今後の課題】急性期病院ということもあり、転院、退院が決定すると口腔ケアが中断されてしまう為、今後転院先でも継続できるよう連携を図ることが必要とされる。また、NSTチーム内の活動にとどまらず、口腔ケアの重要性を周知していくことで入院患者のQOLの向上や感染症予防につながり、質の高い医療を提供できると考えられる。